

ニュースクリップ

## 三田理化工業が兵庫県西脇市に医療用消耗品の洗浄・滅菌拠点

病院・大学や製薬・化学企業向けの洗浄機、滅菌機を製造販売する三田理化工業（大阪市北区）は、兵庫県西脇市に「新開発センター」を完成した。

同センターはアンプルやバイアルなど医療用消耗品を洗浄・滅菌加工する拠点で「高品質の無菌医療機器製造システムを構築する」をコンセプトにしてい

る。

新開発センターはGMP（医薬品の製造と品質管理に関する基準）やQMS（製造管理および品質管理の基準）省令に準拠した。クリーン度が「クラス100」のクリーンルームも採用したほか、管理エリアと非管理エリアを明確に区別する部屋の配置を行い、室圧管理を通じて

清浄度を確保した。また、作業員に対する継続的な教育訓練を実施するなど人材教育にも力を入れる。

同センターは1975年に医療用消耗品の生産事業所として開設。その後、増築や設備更新を重ねてきた。近年、製薬企業だ

けでなく、病院でもGMP適合が求められているほか、核医学診断や新薬の臨床試験でも小ロットで質の高い無菌注射器の需要が急増。さらに、洗浄・滅菌済製品や洗浄・滅菌の委託などでのニーズ拡大に対応し、新開発センターとして建て替え

た。

三田理化では、洗浄・滅菌の加工製品と受託など消耗品事業の売り上げが全体の25%を占めている。新開発センターの完成を機に、生産能力増強と歩留まりの向上に合わせ、消耗品の年間販売を従来の30万本から50万本に引き上げる考えだ。

千種康一社長は「お客さまの要望に応える拠点ができた。1～2年後を目途に消耗品事業の売り上げを約1.5倍に拡大したい」と意気込んでいる。



兵庫県西脇市に完成した新開発センターの洗浄室